

京都など5社 独自技術発表

函館で企業交流会

全国の企業の新技術を紹介する「函館産業・技術融合推進事業交流会」が27日、函館市末広町の金森ホールで開かれ、京都などから来函した5社の社長が独自の取り組みや開発技術の活用実績を発表した。

新技術を活用し、地元の製造業者に新たな商機を見いだしてもらおうと、函館市が昨年

竹の成分を活用した商品開発について語る清岡社長



に続き開催した。球状の太陽電池を開発した京都の会社やセンサー製造で産官学の連携に取り組み横浜の会社などが参加した。

このうちタケックス食品添加物の開発を説明。実験データをもとに「長時間の防臭、抗菌効果に優れ、食品のパサツキ防止、日持ちにも効果がある」と紹介した。

ラボ(大阪府吹田市)の清岡久幸社長は、日本や中国に生育するモウソウ竹の表皮から抽出した成分を活用した

会場には地元企業の経営者ら約100人が訪れ、熱心に話を聞いていた。(則定隆史)